

医療コーディネーターなどを利用するには

利用料金(税込)	認定の条件
一般社団法人日本医療コーディネーター協会 (info@jpmca.net、http://www.jpmca.net/)	医療・福祉資格を持ち、計8日間のセミナー修了者
面談、診察同行などで1時間まで1万800円。以降30分ごと5400円。交通費など実費あり	看護師(5年以上の臨床経験)で1日セミナー受講後、面接、実地研修を受けた人
楽患ナース (☎03・6806・3920、http://www.rnurse.jp/)	
面談は1時間まで1万500円。以降10分ごと1750円。電話は10分ごと1750円。診察同行などは交通費ほか加算料金あり	
一般社団法人よりどころ (メッセージナーズ認定協会) (☎03・5386・2427、 http://www.nursejapan.com/messenger/)	
初回相談無料。単発利用は入金1万円と訪問の場合1回1万800円、交通費実費。継続利用は入金金(終身会員10万円、年会員3万円)と基本契約料(1ヵ月1万5800円)が必要	看護師(10年以上の臨床経験)で、12回のセミナーを修了または医療者等3人以上による審査通過者



医師の説明後に病院フロンテで患者と振り返りの作業をする岩本さん

病気の告知や手術による治療など、医師から重大な選択を迫られたら……。説明を聞いて従ったものの、本当にその選択でいいのだろうか、誰も思い悩むことだらう。そんな、どうしようもなく不安なときの助けになってくれるのが「医療コーディネーター」と呼ばれる人たちだ。活躍の場が広がりはじめた。

都内在住の70代の男性は、医師に前立腺がんの手術を勧められたが、決められずセカンドオピニオンを

## がん告知・手術...どうしよう

# 患者の悩み 解きほぐす

医療コーディネーター 医師と橋渡し

求めて4、5カ所の病院を受診。いずれでも手術以外の治療法を勧められた。それでもまだ「手術した方がいいのかも」との考えを捨てられず、医療について相談できる楽患ナース(東京・足立)を訪ねた。

看護師で医療コーディネーターの岩本ゆりさんは男性の胸のうちを聞く。すると企業戦士として生きてきたのと同様「病気とも積極的に戦いたい」との価値観が浮かび上がった。心底では手術を望んでいたのだ。

「何に悩んでいるのか本人も分からないことが多い。岩本さん。思いを尊重すべく、手術を提示した医師に話を聞くよう助言。手術と他の治療法の効果の差や、体への負担など、選択するため医師に聞くべき質問項目を一緒に整理した。

医療従事者は、患者からの質問がなければ、理解し納得したととらえがちだが、患者や家族は知識不足

### 医療コーディネーターができること、できないこと

できること	できないこと
○電話や面談で患者や家族の悩みを聞き、問題点を明確にする	×具体的な病院や医師の紹介
○患者や家族が治療方法などを選択できるよう支援する	×本人の代わりに治療方法を選択する
○病院に同行する	×病院の予約を早める
○患者側の思いを伝え、医師の言葉をわかりやすく説明する	×医師や家族の意向に合わせ患者を説き伏せる

や不安な気持ちでいっぱい、満足に尋ねられないことも。医療コーディネーターの役割は「決められずにいる人の課題を見つづけ、解決を手伝うこと」と岩本さん。話を聞くのに1時間、さらに質問を重ねて30分ほどで解決の糸口が見えてくる。必要なら病院に同行し、医師との会話を助ける。有料なので誰もが気軽に利用とまではいかないが、看護師や医療・福祉の業務経験者が多面的に助言してくれる利点は大きいようだ。

家族からの相談もくる。

医療コーディネーターやメッセージナーズの担い手は、病院勤務の看護師や訪問看護ステーションを運営する看護師、病院・保健所の医療相談従事者などだ。医療・福祉の現場にいる人たちが各自のやり方でコーディネーター精神を草の根的に広げていくのがベスト」と日本医療コーディネーター協会の嵯峨崎泰子さん。セミナー修了者を増やしている。メッセージナーズの村松静

## 現場の看護師ら担い手 「草の根で広げたい」

子さんは、治療法の選択だけでなく「望む場で最期を迎えられるよう、病院や訪問看護ステーション、緩和ケア施設などを結びつけるなど、地域包括医療の一端も担いたい」と話す。メッセージナーズでNPO法人オハナの前田真由美代表は、長崎県新上五島町で自宅のように過ごせるホームホスピスを運営。「島民のよりどころとなり、在宅死を選べる支援をしていきたい」と意欲的だ。

られるよう手助けした。日本医療コーディネーター協会(東京・港)では、ホームページから相談内容を送ると、事務局からメールや電話がかえってくる。同協会の嵯峨崎泰子代表理事は「悩みの多くはこの電話相談で解消すること。誰かに聞いてもらって整理がつくようだ」。

名称は違っても、患者と家族に寄り添い、医療者との懸け橋となる看護師「メッセージナーズ」も活躍する。訪問看護師の組織をつくった村松静子さんが「看護師だからこそ実行しなければ」と立ち上げた、メッセージナーズ認定協会(東京・新宿)が認定している。現在、認定は28都道府県で91人。病院や福祉施設、教育機関など各自の職場で活動しつつ、一般向けのサービスも試行中だ。

医療技術が高度に専門化する一方で、患者や家族の心に寄り添う医療が難しくなっていると言われる。急性期病院では在院日数の短縮化で、効率が優先される傾向が強い。そんななかで懸け橋はますます求められている。(福沢淳子)